

平成30年度

総務文教常任委員会

行政視察報告書

○視察期間 平成30年7月2日～4日

○視察先および視察テーマ

- ・ 網走市 『日本体育大学附属高等支援学校について』
- ・ 釧路市 『釧路市中央図書館について』
『釧路市公共施設等見直し指針について』
- ・ 帯広市 『こども学校応援地域基金プロジェクトについて』
- ・ 幕別町 『幕別町図書館について』

○参加委員

委員長	東	千春
副委員長	高野	美枝子
委員	佐藤	靖
	山田	典幸
	野田	三樹也
	山崎	真由美

総務文教常任委員会の行政視察について報告をいたします。

日程は7月2日から4日までの3日間で4自治体5か所、視察を行いました。

■ 網走市「日本体育大学附属高等支援学校について」

初日には日本体育大学附属高等支援学校を視察。同校は網走市と連携し閉校となった2つの教育施設を活用して、国内初のスポーツ教育を主軸とした知的障がい者の特別支援学校として平成29年に開校しました。学校の理念と経営方針では、学校教育目標を「自らの無限の可能性を信じ、たくましく（学び）生きる」とし、学校の中だけでは教育は完結しないという理念のもと、生徒が地域社会で生きる力を養うことを目指し、網走のまちの人々との触れあいに重きをおいた体験的な活動を通し、好きなことを見つけ、得意なことを増やし、将来の自立につながる学習活動を行っています。



日本体育大学附属高等支援学校の
屋内陸上競技場を視察

パラスポーツが一層注目を集めているなかで、本市においても、福祉サイドとの連携によりパラスポーツの取り組みを充実させることで、冬季スポーツ拠点化プロジェクトが一層広がりを見せるとともに、さらに深みを増すことが期待できると感じました。

■ 釧路市中央図書館について

2日目午前には釧路市中央図書館を視察。旧市立釧路図書館の老朽化と資料保存の限界、さらには、耐震診断の結果、課題を解決することは難しいとの判断から平成30年に建設された図書館です。

建設位置の決定の経緯と選考理由については、平成25年に新図書館整備庁内検討会議を設置し、適正な規模、立地場所、整備手法等について検討を開始しました。適正規模については、文科省が示す「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」と他都市図書館面積を参考に5,500㎡程度を想定。立地場所については各地区のコミュニティセンター図書室から2km以上離れ、交通の利便性が良く、中心市街地活性化に貢献できる場所等の観点で検討し、北大通における民間ビルの新築計画が明らかになったことから、同ビルへの賃借入居による新図書館整備の可能性について検討。想定規模での整備が可能であることや、公共交通機関の

利便性が高く補助制度の活用により財政問題も解決できることなどから、民間ビル内に図書館を設置することが最善と判断し決定に至っています。

図書館の管理運営手法については、①民間ノウハウを活かした利用サービスの向上が期待できる。②人的資源の整備が図られる。③経費の合理的、効率的な運用によるコストダウンが期待できる、などのメリットがあることから指定管理制度を採用



見やすく工夫されている図書展示スペース：釧路市中央図書館

しています。導入前後の変化としては、開館時間の延長と開館日の拡大、利用者の増加、接遇の向上、レファレンス件数の増加などの効果がみられるとともに、図書館運営に係る経費についても約1,300万円程度節減されたなどの説明を受けました。今後の当市における図書館のあり方について、民間活力の有効利用手法や施設整備のコンセプト、中心市街地活性化への貢献など、検討要素の参考となる実例でした。

■ 釧路市公共施設見直し指針について

2日目午後は「釧路市公共施設等見直し指針」について視察を行いました。

公共施設の老朽化により、改修や更新をしたとしても費用の増大と集中が発生することから、建物状況、利用状況、運営状況等を把握し、総合的・戦略的・経営的な公共施設の見直し、公有資産マネジメントにより、最少の経費で最大の効果を出す取り組みが必要となることから、平成22年に釧路公立大学地域経済研究センターとの共同で釧路市都市経営戦略会議を設置しました。同会議は翌平成23年1月に「釧路市の都市経営のあり方に関する提言」をまとめており、その中で都市経営戦略のプランとして①政策プラン。②市役所改革プラン。③財政健全化推進プランを求めています。



釧路公立大学地域経済研究センターと共同で取り組んだ「釧路市公共施設等見直し指針」を視察

特に、公共施設に関しては市長を本部長とする都市経営推進本部内に、「公共施設等見直し作業部会」を設置し、精力的に協議を行い、平成24

年3月に「釧路市公共施設等見直し指針」、平成26年10月に「釧路市公共施設等適正化計画」、平成27年9月に「釧路市公共施設等保全計画」「釧路市公共施設等総合管理計画」を策定しています。

今回の視察では、計画の策定及び完遂を目指すためには、庁内での検討協議を十分に行い、市民理解を得られるデータ作成、指針、計画であることの重要性を再認識しました。

公共施設は、市民の財産であるが故に既得権も存在します。それだけに、アバウトな目標ではなく、目標を明確化するとともに、市民に理解と協力が得られる手法も検討しなければならないことを強く感じました。

■ 帯広市「こども学校応援地域基金プロジェクト」について

3日目午前は帯広市の「こども学校応援地域基金プロジェクト」を視察。

地域ぐるみで子どもを育てることが求められるなかで、これまで「学校支援地域本部事業」、「放課後子ども広場」、「子どもの見守り活動」をはじめとする様々な取り組みを通じて子どもたちの健全育成の支援をしてきました。このプロジェクトでは、学校を核として地域ぐるみで進めている子育てなどに関する既存の取り組みを緩やかにくくり、学校・家庭・地域総ぐるみで「ふるさとの風土に学び、人がきらめき、人がつながる、帯広の教育」の実現をめざしています。



地域ぐるみで子どもの育成を支える「こども学校応援地域基金プロジェクト」を視察

寄付金は平成28年度11件114万円、平成29年度171件370万円、平成30年度6月末で14件20万円の寄付が寄せられ、地域ぐるみで子どもを応援する活動資金に充てられています。

学校を中心に地域が連携・協力し行われている、地域で子どもの顔が見える学校支援、放課後の居場所づくり・子どもの見守りなどの活動を参考に、本市の取り組みを再度検証してよりよい環境を作りたいと感じました。

■ 幕別町図書館について

3日目午後は「幕別町図書館」を視察しました。

幕別町図書館は図書館が持つ三つの力として、①ネットの力として「バーチャル本棚・ブログ型の情報発信と共有」。②人材の力として「本棚編集の自在性・地

域情報の編集」。③本棚の力として「魅力ある独自の本棚構成・カメレオンコード」に注目しそれらを有機的につなげて図書館を利用者や地域の多様なニーズと期待に応える、情報サービス拠点としての情報編集センターに変革することを目指しています。平成30年度の代表的な取り組みとして、①ARのプラットフォーム構築事業。②図書館オリジナルグッズの企画販売。③町友である平田オリザさんを講師に招いた講演会及びワークショップの開催。④東部4町図書館交流事業。⑤POPコンテスト。⑥ハロウィンパーティー。⑦古本交換市・雑誌無料配布を計画しています。



利用者ニーズに応じた情報サービス
拠点をめざす幕別町図書館

特徴的な取り組みとして「北の本箱事業」は著名人からの寄贈を受けた蔵書類を展示し、広く町民が手にとることで文化意識の高揚が図られるなど、職員のアイデアにより様々な企画を展開しており先進的な取り組みを学びました。当市の図書館は老朽化が著しく、今後の方向性を検討する中でこれらを参考とし、市民全体を巻き込んだ議論を進めることで、市民理解を得られる図書館計画ができるのではないかと感じました。

以上、総務文教常任委員会の視察報告といたします。